

情報連絡員報告総括表(令和6年10月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・原材料価格や各種コストの高騰等から食品全体で製品の価格改定が続いている中で、味噌業界では、令和5年産国産原料米の不足に伴う価格高騰の影響が加わり、現在も価格改定の動きは続いており、生産出荷量へも影響している。 ・内食需要は縮減傾向が見られるものの、外食・ツーリズム関連業種の回復が顕著となり、業務用需要は回復してきている。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	・原材料価格の値上がりが続いている。 ・職員の高齢化が進み退職が続いているため、人員不足である。
	豆腐製造業	↘	↘	↗	→	↘	↘	→	→	↘	・富山県産の食材を使用した展示即売イベントに毎年一部豆腐店も出店し、県産大豆を使った豆腐製品を販売している。地図に掲載されたQRコードで出店したお店がわかるチラシを配り、県産商品を求めて来場した大勢の消費者にPRを行っている。
繊維工業	ニット製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	↘	・売上高や収益状況は、悪化気味である。 ・衣料品の買い控えが見られる。 ・繊維業界は引き続き厳しい状況にある。
	絹人織織物業 製 造 業	↗	↘	↗	→	→	↗	→	→	→	・化合繊維物について、受注は一時期よりも回復傾向にあるが、コロナ禍以前の状況には戻っていない。原材料や資材価格の高騰により製品単価を値上げしたが、人件費も含めて値上がりの頻度が多く、先行きが不安である。 ・絹織物について、輸入原材料価格が高騰しているため、得意先に製品の値上げを要請中である。需要不振の中での値上げのため、売上の減少を危惧している。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	→	↘	→	↘	・業界的には繁忙期は終わりつつあり、先物については今一つ受注が伸びていない。
木材・木製品	一般製材業	↘	→	→	↘	↘	→	↘	→	↘	・新設住宅着工戸数の減少だけでなく、住戸の小型化が進んでいることで一戸当たりの床面積の縮小が顕著となっている。いずれも全国より厳しい数字となり、木材利用量は更に減少している。 ・木材関連事業者は、新設駐宅着工数の減少が続き、また短期的な需要回復も出来ない中で、荷動きや客足の減少、販売価格の悪化が続いているため、厳しい経営環境にある。 ・ロシア材を取扱う事業者は、ロシア国内の鉄道などの物流の混乱によって生産が低下し、先行きが不透明であると共に、日本国内の需要の減少によって厳しい状況が続いている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷	印刷業	→	→	↗	→	↘	→	→	↘	→	・10月からの用紙値上げの発表があったが、メーカーからはまだ値上げ要請の動きは無く、年明けにずれ込みそうな状況である。 ・インキや印刷刷版については値上げが実施され、各社開始時期は異なるが収益悪化の要因となっている。ただ、一部には前年対比で好転しているところもある。
化 学 ・ ゴ ム		医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・生産が増加しているにも関わらず人材の確保が難しく、交代制で工場を稼働しているところもある。
窯業・土石製品		生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・10月の県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比で102.9%となり、17ヵ月ぶりに前年実績を超えている。 ・4月からの累積出荷量は、県全体で前年比91.1%と若干の改善を見せている。
		コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	・特になし。
		骨材・石工品等製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・震災による能登半島への骨材供給体制について協議している。 ・富山県内でも震災関連で復興資材が必要な地区があり、骨材の安定供給は業界の債務と考えている。 ・骨材標準価格について、令和7年度は据え置きすると決定している。 ・骨材の需要は、全体的に堅調な状況で推移している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・建設機械、工作機械及び産業機械関連全般において、受注状況は低調である。 ・先行きに対する不透明感は依然として強い。 ・適正取引講習会を開催したところ、価格転嫁の機運が高まっており、今後に期待している。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↗	→	↗	↘	↗	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	↗	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産実態が安定している。 ・工場の老朽化から、組合員3社が建屋全体の外装を整備している。
	めっき加工業	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	・取引先の生産量が減少し、めっきを行う製品の入荷が減少しているため、売上の前年同月比は減少している。 ・めっきを行う製品の入荷量が減少し、それに使用する材料費や電気代が減少しているため、収益状況に大きな変化はない。
一般機器	金属工作機械製造業	↗	↘	→	→	↗	→	→	→	→	・受注状況及び売上共に、久しぶりに前年同月比で増加となっている。 ・収益状況については、仕事を下請に回さず自社で対応したことによって好転した部分が大きいため、今後は、全体的な景気の底上げを望んでいる。
	金属加工機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・中国経済の低迷による新車の販売減やガソリン車からEV車への移行の滞りなどに伴って、設備投資の減少や生産計画数量が下降修正されるなど、自動車業界の変調による影響からは逃れられず、業界の先行きは下降気配で暗雲が立ち込めている。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	→	→	↗	↗	→	→	→	→	↗	・原材料価格の高騰に対する価格転嫁への対応について、顧客には概ね値上げの承認を得ている。 ・電子部品市況は、回復の兆しが継続している。 ・自動車関係は、電動車向けの新製品が年度末に立上を予定している。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・伝統工芸品関係の展示会やイベントが活発に開催され、商品の動きに期待している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	セメント卸売業	↗	→	↗	→	↗	→		→	↘	・袋セメント出荷数量について、10月も前年同月を大幅に上回り、4年前から続いた数量の減少は解消されている。 ・建設関連事業は、スポット的增加が都度発生するものと思われ、資材価格や人件費、運搬費が高騰したことで着工数は横ばいで伸びは見られないが、能登半島地震災害復興に伴うインフラ関連の出荷が増加に繋がったと想定される。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・この業界は分業制のため、いくつもの工程で後継者不足問題が露出しており、地域だけでは完結出来なくなっている。
小売業	鮮魚小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、横ばい傾向である。
	食肉小売業	↗	↗	↗	→	→	→		→	→	・売上は増加している。 ・仕入れ価格が上昇しているため、販売価格も上昇している。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	→	→		→	→	・10月の富山卸売市場は、数量減の単価高で、売上高は前年同月比92%となっている。野菜単価については、4月～10月累計の前年比で120%と高くなっている。 ・青果組合全体の売上高は、前年同月比93%となっている。
	家庭用電気機械器具小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↘	↘	↘	↘		↘	↘	・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・先月に引き続き、需要の回復感は弱く、また物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少が続いている。 ・販売価格については、燃料油価格激変緩和対策事業の補助上限額や補助率の変更などにより、前年同月比で2円程度高い状況となっている。
	農機具小売業	→	→	↘	→	→	→		↘	↗	・米価が高騰し、農業者にとっては良いムードとなったが、気候の影響で、今年度は米の収量減となり、複雑な心境である。
	スポーツ用品小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・やや景気回復傾向にある。 ・週末には買い物に出掛ける動きが感じられる。 ・急に気温が下がったことで、冬物を購入する動きが例年より早く見られる。
	ショッピングセンター	→	→	↗	→	↘	→		→	↘	・物価高の影響で、消費者の節約志向が更に強まっている。 ・店舗側が仕入れや人件費などのアップ分を価格転嫁しても、消費者はより安いものを選択するため悪循環である。 ・競合店舗間での競争が激しく、客の取り合いになっている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	↘	・天候が良く、商店街にある百貨店で販促イベントが開催されたこともあり、人出はよかった。 ・季節商品の売れ行きがよかった。 ・空き店舗への新規出店の動きがあり、期待している。
	商店街	↘	↗	→	→	↘	→		→	↘	・土日祝日の日中の商店街の通行量について、前年同月比で僅かだが増加している。
サービス業	クリーニング業	↗		↗	→	↗	→		→	→	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・売上は前年同月比で10%増加しており、仕入れ価格は毎月上がっているものの、収益状況は好転している。
	建築設計業	↗		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・10月の自動車新車新規登録・届出台数（登録車と軽自動車の合計）は、前年同月比で2ヵ月連続のプラスとなっている。自動車メーカーの認証不正に伴う影響が緩和し人気車種の生産が再開されたことで、登録者は大きくプラスに転じたが、軽自動車は新型車及びマイナーチェンジから1年が経ち新型車効果下がったことで、マイナスに転じている。 ・実質賃金が物価上昇に追い付いていないことから個人消費の弱さが目立っており、新車販売について予断を許さない情勢が続くと予想される。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えており、こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少している。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	→	↘	→		→	↘	・大手鉄骨加工業者は仕事量に格差が出てきている。中小鉄骨加工業者についても地場物件は見積りも含めて少なく、今後、不需要期に入るため、ゼネコンの指値がより一層厳しくなると思われる。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・給水装置工事配管技能検定会が開催され、17名が受験している。 ・各組合は、新年度予算確保に向けて、水道事業体へ要望活動を実施している。
	電気工事業	↗		↗	→	→	→		→	↗	・住宅着工件数は減少しているが、リフォーム、公共工事、企業設備投資は順調である。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比＋5.3円/ℓと値上がりしている。 ・物量は、前年同月比103.5%と好調である。